

## ●執筆者紹介

村上 一博（むらかみ かずひろ） ※編者

一九五六年京都市生まれ。明治大学法学部教授。同志社大学法学部卒業。神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（法学・神戸大学）。

主な業績…『明治離婚裁判史論』（法律文化社、一九九四年）、『日本近代婚姻法史論』（法律文化社、二〇〇三年）、『日本近代法学の巨擘 磯部四郎論文選集』（信山社、二〇〇五年）、編著『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』（日本経済評論社、二〇〇七年）、共編著『磯部四郎研究—日本近代法学の巨擘—』（信山社、二〇〇七年）、『日本近代法学の先達 岸本辰雄論文選集』（日本経済評論社、二〇〇八年）ほか。

執筆担当…はしがき、プロローグ、総論、第6講、第7講、第8講、第13講、第14講、第21講、第22講、第25講、第26講。

西村 安博（にしむら やすひろ） ※編者

一九六五年鳥取市生まれ。同志社大学法学部教授。九州大学法学部卒業。九州大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。博士（法学・九州大学）。

主な業績…（単著）『鎌倉幕府の裁判における和与について——和与の理解をめぐって——』（二・完）（『法政理論』第三三卷第二号・第四号、二〇〇〇年・二〇〇一年）、『鎌倉幕府の裁判における問状・召文に関する覚え書き』（『同志社法學』第六〇巻第七号、二〇〇九年）、『日本中世における裁判手続に関する理解をめぐって——その理解の現状と課題——』（二・完）（『同志社法學』第六四卷第七号・第六五卷第三号、二〇一三年）、（共編著）『浅古Ⅱ伊藤Ⅱ植田Ⅱ神保編『日本法制史』（青林書院、二〇一〇年）ほか。

執筆担当…第2講、第4講、第9講、第10講、第15講、第17講、第19講、第20講、第24講、あとがき。

## 島山 亮 (はたけやま りょう)

一九七四年横浜市生まれ。龍谷大学法学部教授。東北大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学・東北大学)。

主な業績(単著)「中世後期に於ける暴力の規制について——戦国期喧嘩両成敗法の成立まで——」(『法學』第六五巻第一号、二〇〇一年)、「中世後期村落に於ける領主についての一考察」(『法制史研究』第五一号、二〇〇二年)、「加賀一向一揆における暴力とその規制について」(鈴木龍也編著『宗教法と民事法の交錯(龍谷大学社会科学研究所叢書)』晃洋書房、二〇〇八年)、「戦国期における喧嘩規制法について——戦国期喧嘩両成敗法の再定位——」(『法學』第七五巻第五号、二〇一二年)(共編著)浅古||伊藤||植田||神保編『日本法制史』(青林書院、二〇一〇年)ほか。

執筆担当…第3講、第5講、第11講、第12講、第16講。

## 北 康宏 (きた やすひろ)

一九六八年。大阪府生まれ。同志社大学文学部准教授。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文化史学・同志社大学)。

主な業績(「律令国家陵墓制度の基礎的研究——「延喜諸陵寮式」の分析からみた——」(『史林』七九巻四号、一九九六年)、「敏達紀」「善信尼」覚書——初期仏教と記紀神話——」(『続日本紀研究会編』『続日本紀の諸相』塙書房、二〇〇四年)、「国造制と大化改新——大化前代の支配構造——」(『史林』九四巻二号、二〇一一年)、「大王とウヂ」(『岩波講座日本歴史』古代2、岩波書店、二〇一四年)ほか。

執筆担当…第1講、第18講、第23講。